

心のかよう

明るい社会の実現

つぎに社会福祉の面においては、心身障害者（児）について保護・療育訓練と更正をはかることを目的として施設設備の整備を進めてきており、相当な整備をみているところです。身障者福祉の体系的・総合的な施設として、昭和50年には身障者リハビリテーションセンター及び身障者福祉センターを完成させ、さらに、現在、心身障害者（児）福祉施設体系の中で、職業訓練及び社会復帰の分野を分担するとともに、企業などにおける心身障害者就労の先導的役割を果たす心身障害者総合福祉施設（希望の里）を松橋町に建設中であり、すでに一部はオープンしています。

また、母子家庭、心身障害者など社会的に弱い立場にある人びとが、それぞれの地域において、生き甲斐のあ



希望の里「くすのき園」

る快適な生活が送られるよう積極的に地域福祉活動の推進をはかってきたところではありますが、住民の自主的、主体的な参加による地域ぐるみの福祉活動の助長推進をはかるため、昭和57年度から社会福祉振興基金を新設し、地域福祉活動に対する支援制度を拡充しました。

高齢化社会への対応

一方、熊本県においては人口の高齢化が全国より早く、県人口の伸びを老年人口の伸びが大幅に上回って推移してきています。このため養護老人ホームの改築や特別養護老人ホームの増設などの老人福祉施設の整備を進めるとともに、在宅老人福祉対策として、老人家庭奉仕員派遣制度の充実強化、福祉電話などの日常生活用具給付事業などその充実をはかっています。また、老人の生きがい対策として老人クラブ活動の育成助長、社会参加活動の促進、高齢者大学講座の開設、在宅老人の利用施設としての老人福祉センター、作業所の整備などを積極的に推進し、老人福祉の増進に大きな成果を収めています。また、現在、老人の総合的な生きがい対策



老人福祉センター（不知火町）

の拠点施設として、昭和60年度オープンを目標に大規模年金保養基地の建設も進めているところです。



身障者総合福祉施設「希望の里」



高齢者大学